

令和7年度 第2回 徳島県GIGAスクール構想推進本部会議

徳島県GIGAスクール構想推進本部



次 第

日時 令和7年11月20日(木) 午後1時30分から午後2時45分まで

1 開 会

2 本部長挨拶

3 報告・協議

(1)「徳島県学校教育情報化推進計画」の
進捗状況について

(2)推進チームの活動状況について

(3)各部会における活動の進捗状況及び
今後の予定について

(4)その他

4 閉 会

出席者名簿

所属及び役職	氏名(敬称略)	備考
徳島県教育委員会 教育長	中川 斉史	本部長
徳島県市町村教育委員会連合会 会長 (徳島市教育委員会 教育長)	松本 賢治	副本部長
徳島県教育委員会 副教育長	松本 光裕	副本部長
徳島県小学校長会 副会長(脇町小学校長)	大塚 一志	
徳島県中学校長会 会長(那賀川中学校長)	笠谷 祐史	
徳島県高等学校長協会 会長(徳島北高等学校長)	向井 佳子	
徳島県特別支援学校長会 会長(鴨島支援学校長)	喜多 久美子	
徳島県教育委員会 教育次長(幼・小・中学校担当)	海老名 正規	
徳島県教育委員会 教育次長(高・特別支援学校担当)	眞梶 秀也	

出席者名簿

所属及び役職	氏名(敬称略)	備考
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	地面 浩	
徳島県教育委員会 教育DX推進課 課長	戎 弘人	教育DXタスクフォースリーダー 及び共同調達検討部会長併任
徳島県教育委員会 教育DX推進課 主幹	黒田 收	推進チームリーダー 情報モラル・情報セキュリティ 対策部会長併任
徳島県教育委員会 義務教育課 課長	長谷 彰彦	
徳島県教育委員会 義務教育課 主幹	村岡 文英	中学校部会長 欠席
徳島県教育委員会 義務教育課 班長	中 章訓	代理報告
徳島県教育委員会 高校教育課 課長	金岡 由岐子	欠席
徳島県教育委員会 高校教育課 主幹	藤本 智美	高等学校部会長
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	中山 登	特別支援学校部会長併任
徳島県教育委員会 いじめ・不登校対策課 主幹	宮田 善夫	学びの保障部会長
徳島県立総合教育センター 次長	宮城 佳恵	小学校部会長
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	平田 義明	データ活用研究部会長

【事務局】徳島県教育委員会 教育DX推進課 GIGA・学び創造担当

事務局長：富永憲志、庶務担当：山下芳紀、事務局員：楠俊弘・大西芳正・藤倉新・播磨敬二

(1)「徳島県学校教育情報化推進計画」の 進捗状況について

(1) 徳島県学校教育情報化推進計画について

1 計画の位置づけ

令和5年3月に策定した本計画は、本県の学校教育の情報化の推進に関して、今後の施策の方向性を示すものである。また、徳島県教育振興計画の下位計画として、学校教育の情報化の推進に係る具体的施策を示している。成果指標については、策定時に努力目標として高い数値を設定している。

2 進捗状況の管理

徳島県及び市町村が連携した「徳島県GIGAスクール構想推進本部」（以下、「推進本部」という。）を中心に、各施策の展開に際し機動的に情報を共有することにより、本計画に基づく施策の進捗管理を行う。

取組状況については、毎年度、推進本部の教育DXタスクフォース部会で、成果指標を点検・評価し、計画に基づく施策の進捗管理を行い、次年度の施策や予算等へ反映できるよう公表を行う。

成果指標(Ⅰ)ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

項番	指標	対象	R4実績	R5実績	R6				R7目標
					実績	対前年度	目標	評価	
1	授業で、ほぼ毎日端末を活用している児童生徒の割合	小学校6年生	20.9%	19.2%	12.9%	6.3%↓	80%	△	100%
		中学校3年生	10.3%	11.7%	8.8%	2.9%↓	80%	△	100%
		高校1年生	—	8.3%	28.0%	19.7%↑	80%	△	100%
2	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う児童生徒の割合	小学校6年生	93.4%	94.2%	86.4%	7.8%↓	90%	△	90%
		中学校3年生	89.9%	89.2%	79.7%	9.5%↓	90%	△	90%
		高校1年生	—	68.0%	92.5%	24.5%↑	100%	○	100%
3	情報Ⅰ（代替科目を除く）において、プログラミング実習・データの活用実習を実施している学校の割合	高校	52.1%	87.5%	100%	12.5%↑	100%	◎	100%
4	特別支援学校におけるオンラインを活用した「スポーツ交流大会」等の開催回数	特別支援学校	3	3	3	—	3	◎	3
5	情報モラル教育に関する年間指導計画を作成している学校の割合	全学校	100%	100%	100%	—	100%	◎	100%

◎:達成 ○:改善 △:要努力

成果指標(2)教職員のICT活用指導力の向上と人材の確保

項番	指標	対象	R4実績	R5実績	R6				R7目標
					実績	対前年度	目標	評価	
1	授業にICTを活用して指導することができる教員の割合	全学校	90.4%	91.4%	91.9%	0.5%↑	100%	○	100%
2	児童生徒のICT活用を指導することができる教員の割合	全学校	90.7%	91.7%	92.1%	0.4%↑	100%	○	100%
3	ICT活用指導力向上に関する研修を受講した教員の割合	全学校	89.6%	86.4%	84.5%	1.9%↓	100%	△	100%
4	教職員が情報セキュリティに関する研修を受講した割合	小学校	55.8%	98.1%	98.6%	0.5%↑	100%	○	100%
		中学校	53.7%	98.7%	100%	1.3%↑	100%	◎	100%
		高校	100%	100%	100%	—	100%	◎	100%
		特別支援学校	100%	100%	100%	—	100%	◎	100%
5	遠隔教育を実施した学校の割合	全学校	82.7%	92.1%	76.4%	15.7%↓	100%	△	100%
6	GIGAスクールに関する指導・実践事例数	全学校	200	475	547	72↑	400	◎	500

◎:達成 ○:改善 △:要努力

成果指標(3)ICTを活用するための環境の整備

項番	指標	対象	R4実績	R5実績	R6				R7目標
					実績	対前年度	目標	評価	
1	学校へのインターネット回線 (1Gbps以上)環境の整備率	全学校	66.0%	71.1%	75.7%	4.6%↑	90%	○	100%
2	普通教室の無線LAN整備率	全学校	99.9%	99.9%	99.9%	—	100%	○	100%
3	普通教室の大型提示装置整備率	全学校	91.8%	92.0%	88.5%	3.5%↓	100%	△	100%
4	指導者用デジタル教科書の整備率	全学校	96.9%	97.3%	97.2%	0.1%↓	100%	△	100%
5	学習者用デジタル教科書の整備率	全学校	44.9%	85.2%	86.8%	1.6%↑	60%	◎	70%
6	ICT支援人材を配置している 自治体の割合	県・ 市町村	72.0%	80.0%	84.0%	4.0%↑	90%	○	100%

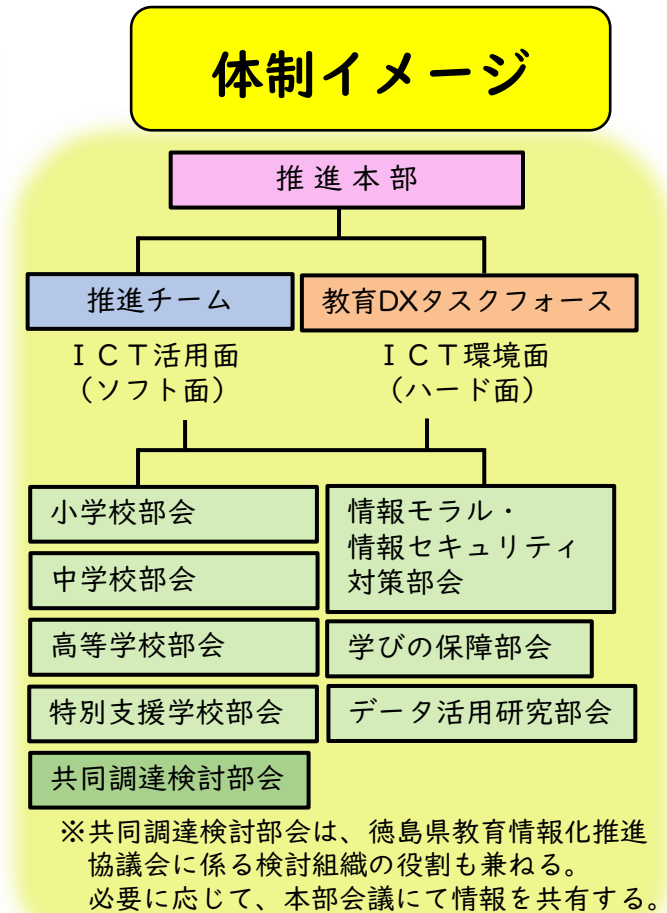
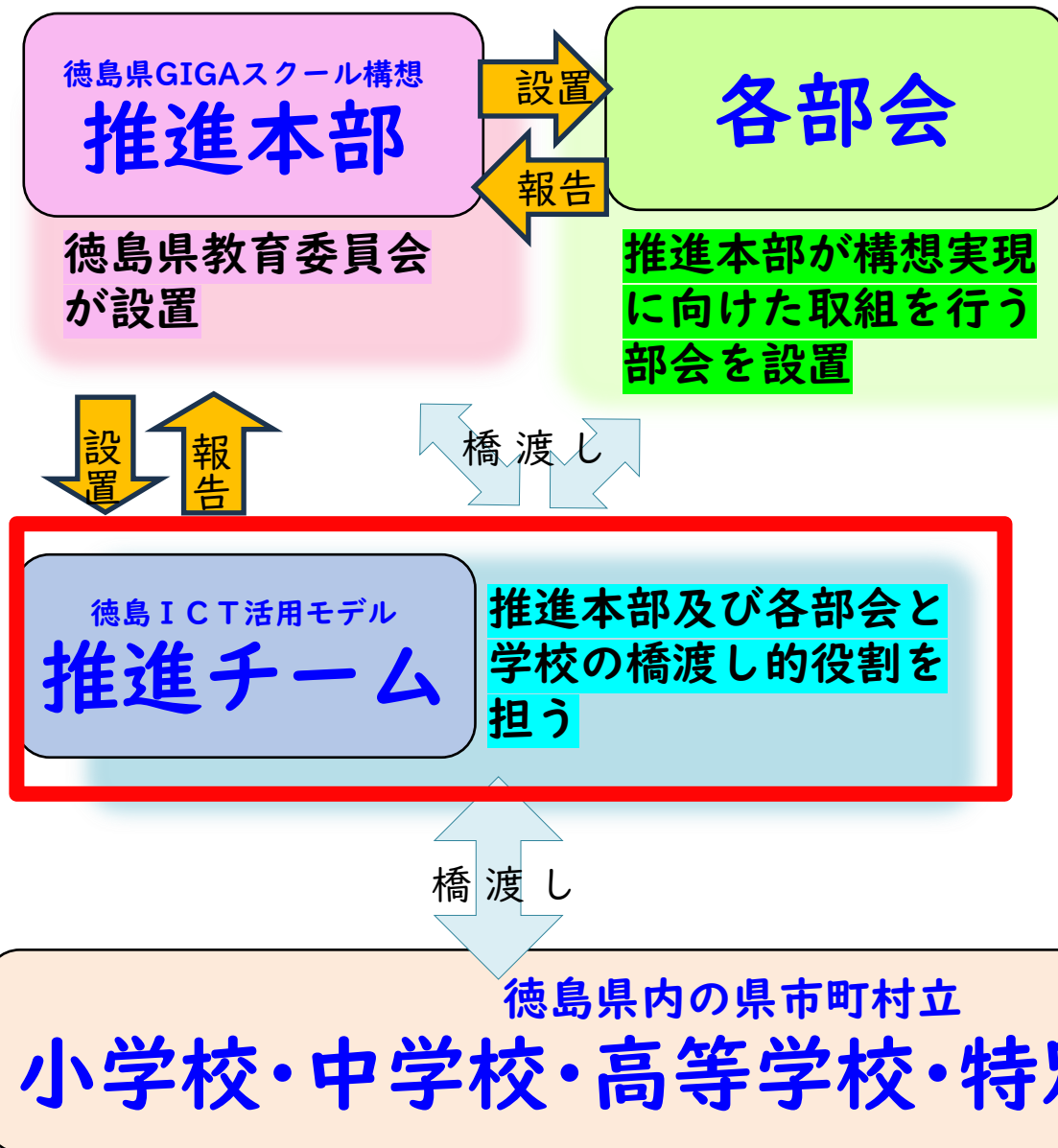
成果指標(4)ICT推進体制の整備と校務の改善

項番	指標	対象	R4実績	R5実績	R6				R7目標
					実績	対前年度	目標	評価	
1	ICTを活用した校務の効率化に 取り組んでいる学校の割合	小学校	96.9%	99.4%	100%	0.6%↑	100%	◎	100%
		中学校	91.2%	98.8%	98.7%	0.1%↓	100%	△	100%
		高校	—	94.2%	97.6%	3.4%↑	100%	○	100%
		特別支 援学校	—	100%	100%	—	100%	◎	100%
2	市町村の学校教育情報化 推進計画策定率	市町村	—	0%	4.2%	4.2%↑	100%	△	100%

◎:達成 ○:改善 △:要努力

(2) 推進チームの活動状況について

R7 徳島県GIGAスクール構想 各組織の構成



推進本部の目標・重点推進事項について

推進本部

令和7年度の推進目標

「学びを豊かにする教育DXの推進」

- ・各校における「徳島ICT活用モデル」のM段階の事例研究・創出

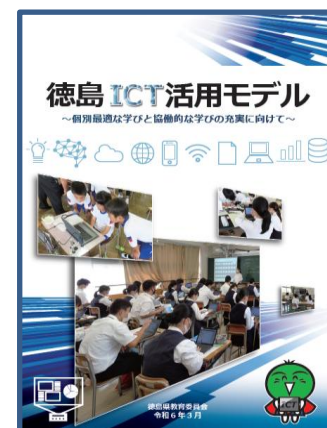
令和7年度の全体重点目標

- ① GIGAスクール構想の更なる展開
 - ・「徳島ICT活用モデル」による学び・指導の変革とICTの活用推進
- ② ICTを活用した教育の推進
 - ・県域アカウント（クラウドツール）利活用の研究・推進
 - ・先端技術を活用した新たな教育の可能性を広げる教育の研究・推進
- ③ ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 - ・児童生徒の主体的な学びを支える情報活用能力（情報モラル、情報セキュリティ、プログラミング的思考に関する資質・能力を含む）の育成
 - ・児童生徒の発達段階や学習段階、多様な学習ニーズに応じた教育活動の推進

推進チーム

重点推進事項

- ①「徳島ICT活用モデル」
M段階の事例創出
- ②「県域のアカウント」
普及



推進チームの活動① - 学校訪問・学校計画訪問 -

義務教育課の**学校訪問**、高校教育課及び特別支援・相談課の**学校計画訪問**に推進チームのメンバーも同行。

令和7年度 推進チームの訪問数

小学校	32校
中学校	25校
高等学校	19校
特別支援学校	10校

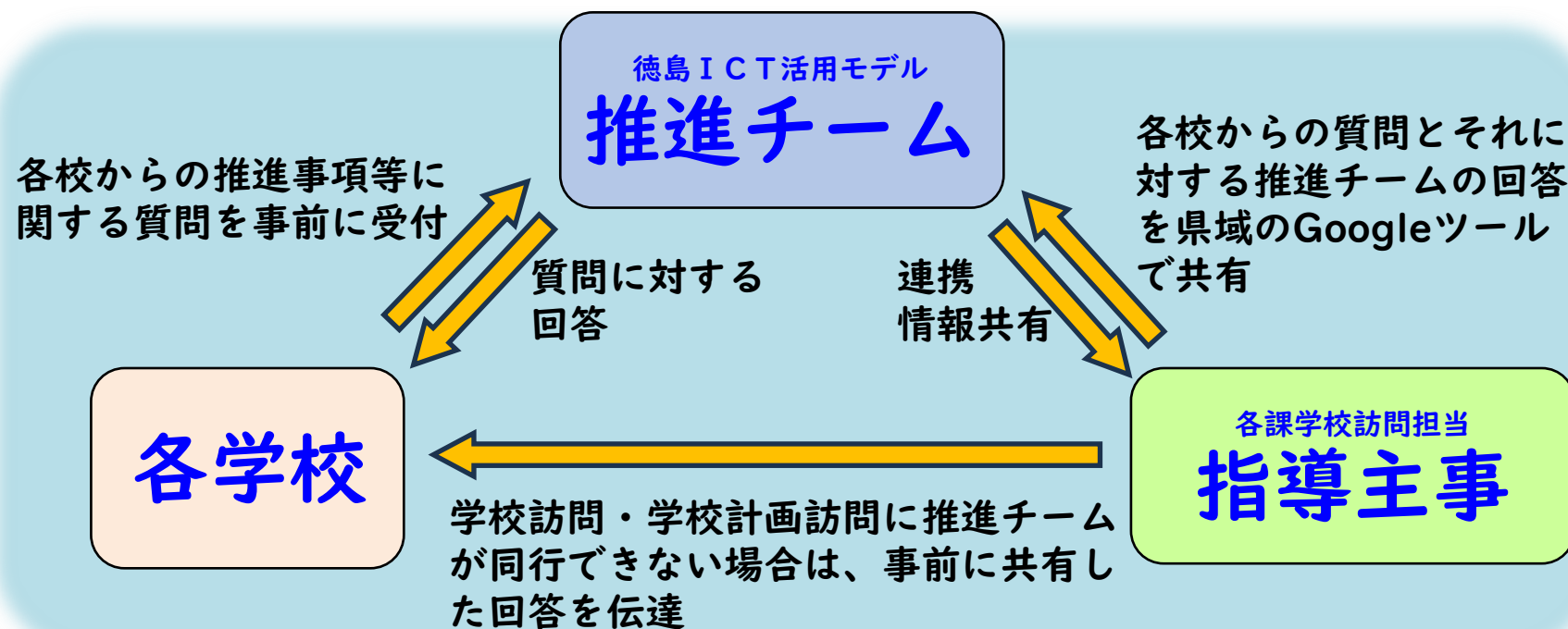
※推進チームが同行できない学校には、他課の担当者に伝達等を依頼。

直接的なICT活用の推進

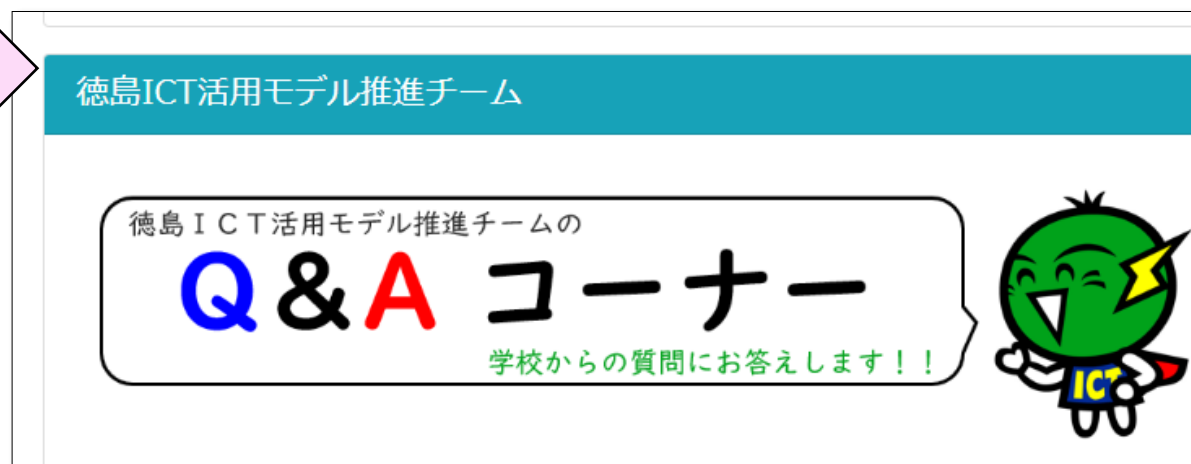
- ☐ 推進本部等の施策の周知
- ☐ 研究授業・公開授業を参観しての指導・助言
- ☐ 各校管理職との協議
- ☐ 各課学校訪問担当指導主事等との情報共有・連携

など

推進チームの活動① - 学校訪問・学校計画訪問 -



教職員のみに公開しているホームページにて上記の質問を元に作成したQ&Aを公開



推進チームの活動① - 学校訪問・学校計画訪問 -

今年度の学校訪問・学校計画訪問が予定されていない学校にも配布

■ 各部会 (小学校部会/中学校部会/高等学校部会/特別支援学校部会/情報モラル・情報セキュリティ対策部会/学びの保障部会/データ活用研究部会/教育DXタスクフォース/共同調達検討部会)

- 各部会の活動内容・提案等
及び各部会からの情報提供・Q&A
- 各部会へのご質問・ご意見等

- 各部会への事例提供
☆ 皆様の活動・取組の事例を、各部会へぜひ、ご提供ください。

Google フォームにて、各校から質問や意見を伝えることが可能。

徳島ICT活用モデル推進チーム

※デジタル版のダウンロードはこちらから↓



※デジタル版は、各項目にリンクの設定をしています。

徳島県GIGAスクール構想推進本部

- 徳島県GIGAスクール構想ポータルサイト
- 令和7年度の徳島県GIGAスクール構想組織の構成(推進本部・推進チーム・各部会)今年度の推進目標・全体重点目標

徳島ICT活用モデル推進チーム

- 徳島ICT活用モデル
- 令和7年度の重点推進事項 徳島ICT活用モデルのM段階について 県域アカウントについて

■ 各部会 (小学校部会/中学校部会/高等学校部会/特別支援学校部会/情報モラル・情報セキュリティ対策部会/学びの保障部会/データ活用研究部会/教育DXタスクフォース/共同調達検討部会)

- 各部会の活動内容・提案等
及び各部会からの情報提供・Q&A
- 各部会へのご質問・ご意見等
- 各部会への事例提供
皆様の活動・取組の事例を、各部会へぜひ、ご提供ください。

学校訪問・学校計画訪問

- 推進チームによる学校訪問・学校計画訪問について (全体会・全体協議会資料)
- (参考資料)「M段階・県域アカウントについて」

県域アカウントの活用サポート

- 徳島県GIGAスクールサポートサイト
- 要請訪問 (オンラインで対応)
- Google for Education

※内容は随時、更新する予定です。

参考情報・参考資料

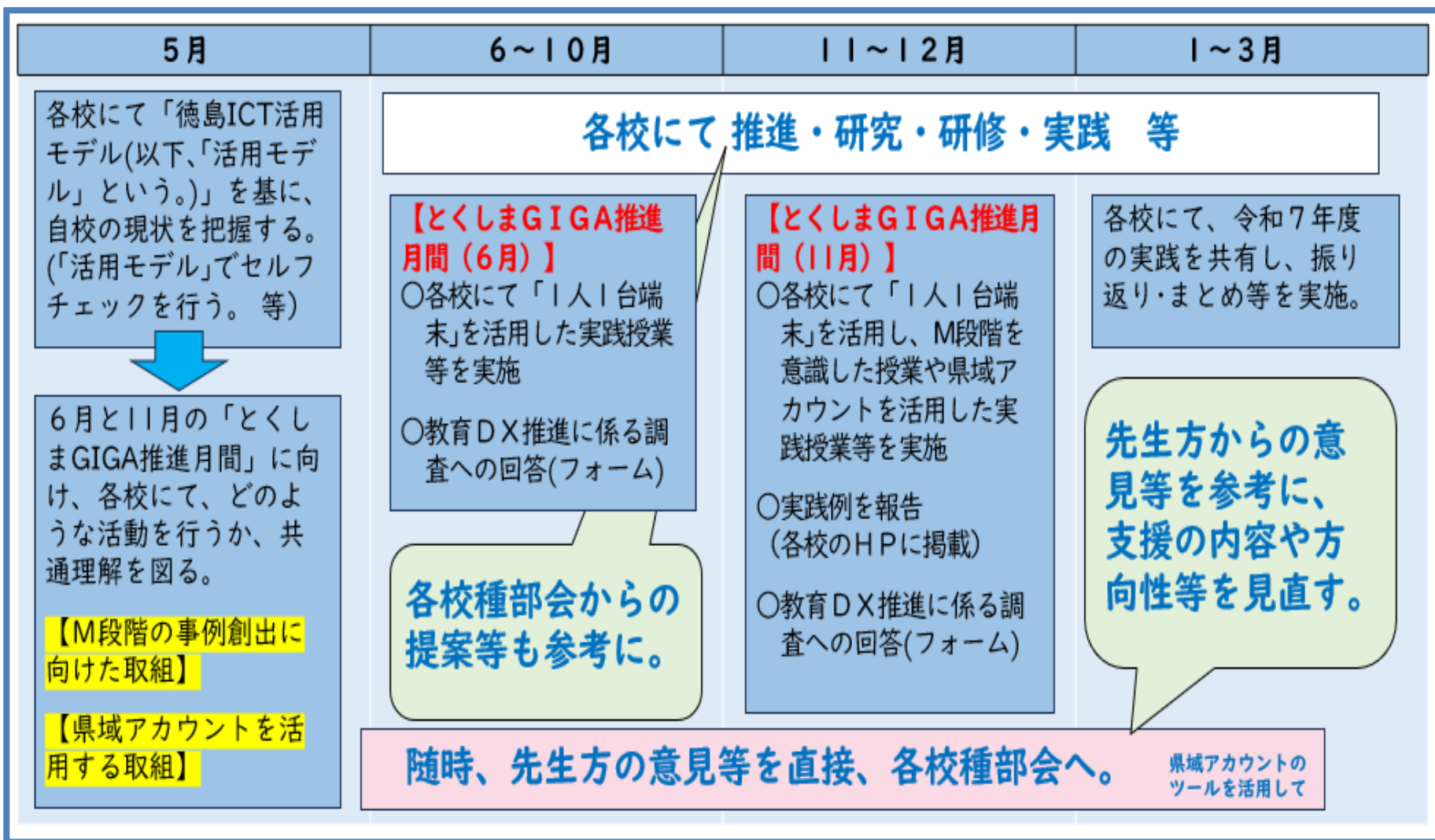
- 令和6年度版 教育DX推進に係るFAQ
- 令和6年度版 教育DX推進に係る各校の取組例
- StuDX Style
- GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト

お問い合わせ：徳島県教育委員会 教育DX推進課

☎ 088-621-3190

✉ kyoulkudxsuishinka@pref.tokushima.lg.jp

推進チームの活動② - とくしまGIGA推進月間 -



推進チームの活動② - とくしまGIGA推進月間 -

教育DX推進に係る調査(6月)の結果

Q1:現在、校内の授業で「徳島ICT活用モデル」
M段階の事例は見られますか?

校種	見られる	見られない
全校種	72.8%	27.2%
小学校	73.0%	27.0%
中学校	69.6%	30.4%
高等学校	78.0%	22.0%
特別支援学校	72.7%	27.3%

→ すでに多くの学校でM段階
の事例は見られている

Q2:現在、校内でGoogleアカウントを活用していますか?

校種	児童生徒が活用	教員が活用	どちらも活用	どちらも未活用
全校種	2.1%	33.8%	24.1%	40.0%
小学校	1.3%	36.5%	13.2%	49.1%
中学校	1.3%	39.2%	16.5%	43.0%
高等学校	7.3%	12.2%	70.7%	9.8%
特別支援学校	0.0%	36.4%	63.6%	0.0%

※中等教育学校・市立高等学校も含む
※6月は市町村教育委員会が整備している
Googleアカウントも可として調査

→ 教員から活用が進んでいる

推進チームの活動② - とくしまGIGA推進月間 -

(参考)

県内の24市町村におけるICT環境面に関する状況について

(令和7年10月現在)

① 端末の持ち出し(持ち帰り)について

	認めている	認めていない
教員	19	5
児童生徒	24	0

※「認めている」の自治体数には、「許可制」等の「条件付き」も含む。

※「認めている」の自治体では、校外の「Wi-Fi接続」も同様に可能。(制限付きも含む。)

② 校外での県域アカウントの使用について

	認めている	認めていない	未整備
教員	21	3	0
児童生徒	14	2	8

※「認めている」の自治体数には、「条件付き」等も含む。

※「認めていない」の自治体数には、「対応予定」等も含む。

※ 児童生徒用の県域アカウントについては、R9までの整備完了を依頼している。

【備考】県立学校は①②ともに認めている。

推進チームの活動② - とくしまGIGA推進月間 -

教育DX推進に係る調査（6月）の結果

Q3：今年度の推進事項を実現するために、どのような取組が必要であると考えられますか？

※1【算出方法】該当校数/対象校数 ※2：各校、最大3つまで選択可の条件指定で回答

校種	ICTの活用推進	ICTの効果的活用	データ利活用	児童生徒の情報活用能力の育成（モラルも含む）	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた研究・実践等
全校種	45.2%	35.9%	3.8%	31.7%	26.6%
小学校	47.2%	32.7%	4.4%	35.8%	30.8%
中学校	43.0%	43.0%	0.0%	32.9%	21.5%
高等学校	41.5%	36.6%	4.9%	19.5%	22.0%
特別支援学校	45.5%	27.3%	18.2%	9.1%	18.2%

校種	デジタル人材の育成	機器・ネットワーク環境の整備	ICT支援員との連携	現状の取組を続ける。 （概ね推進事項は実現している。）
全校種	35.2%	31.0%	16.9%	3.8%
小学校	32.7%	30.2%	14.5%	4.4%
中学校	38.0%	32.9%	15.2%	2.5%
高等学校	36.6%	34.1%	22.0%	2.4%
特別支援学校	45.5%	18.2%	45.5%	9.1%

※中等教育学校・市立高等学校も含む

推進チームの活動② - とくしまGIGA推進月間 -

とくしまGIGA推進月間(11月)の取組

現在実施中

【とくしまGIGA推進月間(11月)】

○各校にて「1人1台端末」を活用し、M段階を意識した授業や県域アカウントを活用した実践授業等を実施

○実践例を報告
(各校のHPに掲載)

○教育DX推進に係る調査への回答(フォーム)

今後の予定

各校のホームページに掲載されている実践事例を推進チームで収集(12月)

推進チームのホームページ内に各校の掲載ページを一元化
⇒「徳島ICT活用モデル」のM段階の実践事例や県域のアカウントを活用した取組を**横展開**
(**県内の公立学校で共有**)

※「M段階」の学び方⇒児童生徒の主体的な学び

※「教師の指示による学び(S・A段階)」と「児童生徒の主体的な学び(M・R段階)」の授業の比較イメージも掲載予定

(3) 各部会における活動の進捗状況及び 今後の予定について

令和7年度 小学校部会の役割

小学校の実態・発達段階等に応じた 推進目標・全体重点目標に向けた支援
- ICTを日常に生かし、学び方を選べる子を育てる使い方を広げる -

年度当初の課題 等

- ① 情報活用能力が学びとつながりにくい
- 学びの連続性や蓄積に課題
- 児童の学びの変容が見えにくい
- ② タイピング・情報モラルにばらつき
必修のプログラミング教育が不十分
- ③ 教員がICTのよさを実感しにくい



方策

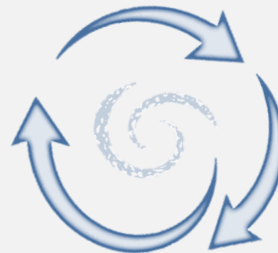
- ① ICTスキル体系表の整備
情報活用能力年間指導計画の見直し
振り返りテンプレートで記録・共有
- ② タイピング大会と育成モデルの可視化
STEAM型授業の推進(Minecraft等)
- ③ 好事例の周知と活用法の共有

活動の進捗状況・今後の予定

① スキルの体系化と見える化

🌀 情報活用能力年間指導計画

- ・ 文字入力・ツール活用の段階化
- ・ 学びの過程を記録し、柔軟に改善
- ・ 生成AIの理解、情報モラル計画



② 児童のICT基礎力向上

🏠 徳島県タイピング大会

- ・ 71校、1,368名が参加(県内15自治体)
- ・ 参加回数など成長を可視化
- ・ 「冬の大会」は対象を拡大

③ 好事例の普及と横展開

📁 県内推進校の実践共有

・ Googleスプレッドシート™「振り返りテンプレート」を提供

令和7年度 中学校部会の役割

中学校の実態・発達段階等に応じた 推進目標・全体重点目標に向けた支援

現状・課題等

- ・教員も生徒も普段使いができています
- ・外部からの講師を招いての研修を行い、職員間で共有をはかることができた
- ・生徒も研修を受けたので、色々な制作にICTを使う場面が増えている
- ・メンター研修を行い、ICTを活用できる教員が増えた
- ・SAMRモデルのM段階へ向けての手立てがわからない
- ・SAMRモデルを理解するのが難しい、段階がグラデーション
- ・進んでいるICTの使い方の情報をどのように共有していくか



方策

- ・個人内で立てる明確な目標
- ・「徳島ICT活用モデル」に掲載されている実践の積極的活用
- ・学校訪問で好事例を発信

活動の進捗状況・今後の予定

進捗状況

- ・GoogleスライドTMやCanvaを使用し、作品を作成。
- ・生成AIを使用し、アプリの開発。
- ・単元ごとにレポート作成。
- ・GoogleサイトTMで資料を掲載し、自分の力で課題を解決。
- ・Googleサイトを使用し、地元の魅力を学校のHPを通じて発信。
- ・地元の企業と連携し、パンフレットを作成。

今後の予定

- ・研究授業、公開授業の実施。
- ・長期休暇中にタイピング大会の実施。

令和7年度 高等学校部会の役割

ICT活用による学び・指導の変革と
県域アカウントの利活用推進

課題

- ①学校間や教員間等でICT活用の進捗に差があり、全体として活用の幅を広げる必要性
- ②県域アカウントの利便性周知（「標準化・自由化」の促進）

取組の進捗状況

学校計画訪問の全体協議会での実践

- Google Classroomでの資料共有
 - ・実施要項や協議会資料の事前共有
 - ペーパーレス化による準備・配布の労力削減、情報の一元化
- Canvaでのグループ協議
 - ・ClassroomにCanvaのリンクを貼付
 - 意見の可視化、課題の明確化
- Googleフォームでのアンケート
 - ・自動集計・分析
 - グループ協議のワークシートや振り返りアンケート結果をPDFにして各校にフィードバック

「Canvaなどの教育クラウドツールを今後、授業や校務に活用したいですか」
(10月までの実施13校391名)

- ・すでに活用している … 4.9%
- ・活用したい … 63.4%
- ・活用したいが、やり方・活用場面がわからない … 29.9%
- ・活用したくない／必要性は感じない … 1.8%

教育課程研究集会等の研修での実践

- Google Classroomでの資料共有
 - ・説明資料や参加者が提出した課題の事前共有
 - ・研修後の情報共有
 - ペーパーレス化による準備・配布の労力削減、継続的な学びの場の提供
- Googleドキュメント™を活用した研修
 - ・共同編集、相互参照
 - 協働的な学びの促進


《参加者アンケートより》
Googleのアプリを用いた今回の研修形態は、今後学校現場でも課題の配布や提出、オンライン授業等に活用できると感じました。

【今後の予定】

ICT活用の好事例を収集し、
操作マニュアル等とともに随時発信

好事例や操作マニュアルの発信


- ポータルサイトのみならず、
県立学校掲示板にも掲載
- ・教科でのICTの活用事例
- ・Google Workspace™に含まれるアプリケーションについて
- ・セキュリティに関する情報
- 手軽にいつでも確認できる環境を提供



ICT活用の好事例2025【教科用】

徳島県GIGAスクール構想

教科・単元	古典探究『無名草子』
活用場面	古文の口語訳
使用ツール	Microsoft Forms
使用方法	教師が出題した問題に、生徒が解答する。
使用の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・幅が起り得る口語訳の正誤を確認する。 ・基礎的な文法事項を押さえる。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の口語訳を一覧にでき、一気に確認できる。 ・生徒が匿名で個々に解答できるため参加しやすい。



・古文の口語訳は苦手な生徒にとって、「どうしてその訳になるのか」「正答例にある訳でないためなのか」といった引っかかりを生みやすい。そういうつまづきを防ぐことができる上で効果的と感じた。

・誤答をしてしまった生徒へのケアとして、紙媒体にも解答させたものを回収して教師が助言。きめ細やかな指導につなげている。

令和7年度 特別支援学校部会の役割

特別支援学校の実態・発達段階等に応じた 推進目標・全体重点目標に向けた支援
ICTをフル活用した新たな「学び」や「体験」の充実～シームレスにつながり、みんなの学びへ～

年度当初の課題 等

- ・オンラインの活用による新たな学びや体験の充実
- ・ICTを活用した新たな学びや体験の創出
- ・実態に即した「情報モラル・セキュリティ教育」の工夫

方策

- ・好事例を周知し、活用法を共有
- ・専門家と連携し、新たな学びや体験に係る研究を推進
- ・「情報モラル・ターゲット表」の共有と活用による学習の拡充

活動の進捗状況・今後の予定

①情報モラル研究会

第1回情報モラル研究会を開催

各校がオンラインでつながり課題を共有



ひわさ分校の紹介



ひわさ分校は全校児童生徒25名の
アットホームな学校です



オリジナルビデオ等で、自分の学校を紹介

【成果】

- ・県内全ての特別支援学校がオンラインでつながり、情報モラルに関する課題を共有

【今後の方向性】

- ・情報モラルに関する学習について各校の取組成果をクラウドで共有

②新たな学びや体験の創出

ICTをフル活用した新たな学びや体験の創出

阿南支援学校

Canvaでのポスター制作活動



県域アカウントを使用した学びの創出

ひのみね支援学校

企業とのテレワーク体験



ICT機器を使用した就業体験報告会

【成果】

- ・時間や距離の制限を超えた体験を創出
- ・苦手分野のサポートによる才能開花・自己実現

【今後の方向性】

- ・引き続き、個々の実態に合わせた新たな「学び」や「体験」を創出

③専門家等との連携

専門家等との協働によるデジタル技術を活用した学び



大学と連携し、VRと360°カメラを活用した教材研究を実施

社会人講師と連携した動作法訓練、VTRを使ったデジタル教材の作成

【成果】

- ・専門家等との協働により、デジタル技術の強みを最大限に発揮

【今後の方向性】

- ・好事例の共有により、デジタル技術の活用方法を他校へと横展開

令和7年度重点目標

徳島県における教育のDXを推進し、教育に必要で持続可能な環境を構築する協議及び調整を行う。

年度当初の課題

- ・県域の統一アカウントの円滑な配布と活用促進
- ・県立学校のネットワーク環境の最適化
- ・タブレット端末の更新と教育利用の推進
- ・学校教育情報化推進計画の着実な実行と継続的な改善

方策

- ・有識者からの意見聴取と教育現場のニーズ反映を重視した計画策定
- ・関係機関との連携強化による効率的な事業推進
- ・教育効果の検証と計画改善のための評価体制構築

委員からの助言・今後の予定

- 徳島県学校教育情報化推進計画について検討
徳島県学校教育情報化推進計画に係る成果指標
【委員からの助言】
ICT活用率の低下は懸念。質問内容やコロナ禍、教員と生徒の認識差が要因と推測され、実態把握が必要。
【今後の予定】
目標の周知を強化し、課題意識の共有と支援を図る。

- 県域統一のアカウント（Google）について
【委員からの助言】
アカウントのネーミングポリシーや管理上の工夫が必要。
【今後の予定】
県域アカウントのガイド策定を進めており、研修や教材提供も検討中。運用支援と体制整備を図る。

- ネットワークについての検討
【委員からの助言】
有線は安定。大中規模校の無線LAN整備も進む。
今後は接続差や帯域不足が課題。
【今後の予定】
スイッチや旧型無線LANの更新、大規模校の回線増強も検討。

- 端末の更新について
【委員からの助言】
費用負担の議論だけではなく、活用促進に向けた研修や支援体制の充実も議論することが望ましい。
【今後の予定】
更新に向けた方針や活用促進について引き続き検討する。

令和7年度 情報モラル・情報セキュリティ対策部会の役割

情報モラル・情報セキュリティ関係の情報収集・発信等

年度当初の課題

- ・技術の進化や教育現場の課題への対応
- ・データの保護に対する意識の向上
- ・生成A Iの適切な利活用



方策

- ・自他の人権を尊重する情報モラル教育の推進
- ・情報を正しく安全に利活用できる情報活用能力の育成の推進
- ・校務の様々な場面における、生成A Iの適切な利活用の推進

活動の進捗状況・今後の予定

進捗状況

- ・情報モラル教材の活用推進： 徳島県版活用型情報モラル教材「G I G Aワークブックとくしま」の活用推進。
- ・リーフレット配布による情報発信： 情報モラル啓発資料を児童生徒、保護者に配布。
- ・教職員研修の実施： 情報モラル教育の推進役を担う教員対象に、効果的な指導方法等について研修会を実施。
- ・生成A I研修： 生成A Iの校務・授業での活用について研修会を実施。
- ・FAQの更新： 生成A Iの利用年齢の変更に対応。

今後の予定

- ・「G I G Aワークブックとくしま」の更新に向けた協議
- ・令和8年度情報モラル年間指導計画の見直しについての協議
- ・年度末及び年度初めにおけるデータの取扱いや、教職員のセキュリティ遵守に向けた取組についての協議
- ・FAQの更新

令和7年度 学びの保障部会の役割

学校（教室）外における学びの場を保障するためのICT活用についての研究

年度当初の課題等

- ① 不登校児童生徒の学習の成果に係る
成績評価
- ② 教員の**ICTスキルには個人差**があり、
より広範な活用が必要



方策

- ① 学校計画訪問や教育支援センター等の
訪問で好事例の**情報収集・発信**
- ② ・**Google Workspace**の活用法等の発信
・**Google Chat™**を活用してコミュニ
ケーションを深める

活動の進捗状況・今後の予定

【進捗状況】

- ・学校計画訪問等による情報収集：
学習成果の評価方法等に関する好事例を、学校計画訪問等を通じて収集
- ・部会内での情報共有：
共同編集可能な「報告シート」等を活用し、各校の取組状況や成果を随時入力・共有
- ・ホームページでの情報発信：
Google各種サービスの活用方法等を、ホームページを通じて発信
- ・教職員研修の実施：
県域アカウント担当者と連携した、Google各種サービスの基礎的な活用方法の研修を実施

【今後の予定】

- ・好事例の更なる収集と分析
収集方法：学校計画訪問、教育支援センター、校内教育支援センター、保健室登校等
- ・ホームページでの発信内容の充実：
発信内容：学習成果の評価方法、Google各種サービスの活用方法、校内支援体制や連携の工夫等

令和7年度 データ活用研究部会の役割

教育データ利活用についての研究（県域アカウントを用いたデータ利活用・MEXCBTに関する調査）

※ MEXCBT（メクビット）：文部科学省のCBTシステム

年度当初の課題等

県域のアカウントを用いたデータ利活用

- 各校が使用する様々なツールのデータが混在しており、統合や連携が難しい。
- 県域のアカウントで利用できるツールを、活用している教職員・児童生徒が少ない。

MEXCBTに関する調査

- 全国学力・学習状況調査（全国学調）は、令和9年度、MEXCBTに全面移行の予定である。
- 地方学力・学習状況調査（地方学調）においても、文科省はMEXCBTの活用を促進している。

方策

- 将来的な教育データ利活用のために、データ形式の標準化の必要性を発信していく。
- 県域のアカウント及びツールの積極的活用と教育データのクラウドへの蓄積を促していく。
- MEXCBTでの全国学力・学習状況調査や他県の地方学力学習状況調査について、動向や運用状況等を調査・研究する。

活動の進捗状況・今後の予定

☑：これまでの活動内容 □：これから活動予定

県域のアカウントを用いたデータ利活用

- ☑「県域のアカウントを活用するメリット」や「標準化を図る必要性」等を部会通信で発信
- ☑学校訪問担当者と連携した直接的な活用推進（全体会などで先生方へ説明・訪問の際、実際に活用等）
- ☑キャリアパスポートのデジタル化に向けた検討 ※「別紙スライド」を参照
- キャリアパスポートのデジタル化を推進（関係課と連携し、デジタル化を推進していく旨を周知）

MEXCBTに関する調査

- ☑「地方自治体の学力調査等のCBT化検討研究会」への参加
- ☑他県学力調査の実施状況の聞き取り（県単位でMEXCBT利用となっている17自治体を対象）
- ☑全国学調中学理科（IRT）をもとにしたフィードバック方法の分析
- 他県の調査結果等をもとにした「同一問題出題方式」と「IRT」それぞれの利点・課題を整理

※ IRT（項目反応理論）：学力スコアを推定するための統計理論で、それぞれに出題される問題も異なる。

キャリアパスポートのデジタル化の方向性について

現状及び課題

- 市町村立学校の児童生徒においては、R9以降、全ての学校で「県域のアカウント」が利用できるように各市町村教育委員会に依頼している。
- 進学時のデータ引き継ぎ（持ち越し）も、R9以降からの実施予定である。
※各自でデータをエクスポート・インポートすれば、データ引き継ぎ（持ち越し）は可能。
- 市町村によっては、域内で統一されたキャリアパスポート用ファイルや形式などがある。
- 教員用のアカウントは整備済みであるが、Googleツールに不慣れな教員もいる。

デジタル化の方法

各自のGoogleドライブ™内にキャリアパスポートのフォルダを作り、
任意のファイル形式で保存する。

- ・ R9までをデジタル化の移行期間とし、進学時の紙媒体での引き継ぎを減らしていく。
※各市町村教委に確認の上、可能な学校からデジタル化を推進していく。
- ・ 紙のキャリアパスポートをデジタル化しても構わない。
- ・ 児童生徒自身が、より有効にキャリアパスポートを活用できるようにすることを最優先する。

サポート内容

- ◎ 「Googleドライブ内にキャリアパスポートを保存する手順書」を作成・配布
- ◎ 「Google Classroomのコメント機能を利用する手順書」を作成・配布

令和7年度 共同調達研究部会の役割 ※共同調達検討部会は、徳島県教育情報化推進協議会に係る検討組織の役割も兼ねる。

GIGAスクール構想推進に向けた調達スキームの構築・実行計画の提案(小・中学校の端末・次世代システム等)

年度当初の課題等

- ・「学校業務支援システム」の更新に向けた、次世代校務支援システムの導入の検討
- ・GIGAスクール構想推進に向けた、端末機器等の仕様等の検討



方策

- ・他都道府県等への独自調査等を実施し全国状況の把握をしながら、校務支援システムワーキンググループにおいても検討を実施していく。
- ・端末調達に係る市町村の事務負担の軽減や、スケールメリットによる端末等の共同調達を通じた端末利活用等に係るノウハウを共有することで業務改善を図る。

活動の進捗状況・今後の予定

1.学習者用コンピュータの仕様書について

【進捗状況】

令和7年度：17自治体及び県（県立中学校）で端末更新

【今後の予定】

令和8年度：6自治体及び県（特別支援）で端末更新予定
仕様修正：ストレージ128GB（iPad）端末廃棄条件継続

【委員からの助言】

CPUスペックは今後の技術進展に合わせて見直しを検討
より効率的な廃棄方法（暗号化キー廃棄等）の活用を推奨

2.校務支援システムの仕様について

【進捗状況】

ワーキンググループで必要機能を検討
各自治体と協議し、意見を仕様書に反映

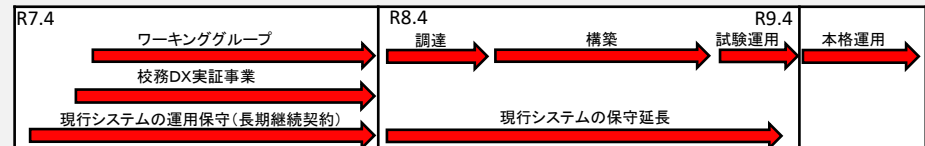
【今後の予定】

仕様を取りまとめ、業者へ見積依頼中

【委員からの助言】

進路指導や入試関連書類の電子化が進むと、業務効率化に大きく寄与するので望ましい
学籍情報や指導要録のスムーズな引き継ぎができる仕組みがあると、現場負担が軽減される

1.校務支援システムの導入スケジュール



2. ワーキンググループ実施状況

回	日付	対象	開催方法	内容等
1	4/23(水)	全	オンライン	ワーキンググループ設置について 目的や構成員について
2	5/13(火)	高特	オンライン	各ベンダーからのプレゼンテーション
	5/14(水)	小中		
3	6/2(月)	小中	総合教育センター集合	各ベンダーのシステム操作体験会
	6/3(火)	高特		
4	6/18(水)	全	オンライン	必要な機能についての意見交換
5	7/1(火)	全	オンライン	必要な機能についての意見交換